

●とても実りある「第4回民泊部会」となりました

今回から会議の方法を変更し、企業などが多く取り入れている「ブレインストーミング」(少人数のグループでワイワイガヤガヤ遠慮なく、建設的かつ前向きな意見を全員が出し合う会議)を、思い切ってやってみました。テーマは町民への啓発手段、体験活動と交流手段、地域や経済活性化でした。お願いしたことは3点、司会役などもグループで決めていただくこと、みんなの意見を引き出すこと、批判をしないことでした。

時間になっても、どのグループも話し合いをやめようとされない熱のこもった会議となり、批判からは何も生まれないことを参加者の皆さんに理解していただきました。集約された意見も、「どうしたら安芸太田町が取り組む民泊を良くしていけるだろうか」という、前向きな提案が大変多く、事務局が考えもしなかったアプローチからの提案も数多くあげられました。また、最も嬉しかったのは「本当は旧町村枠を越えてこんな話をしたかった。今日は本当に良かった。」とおっしゃっていただけたことでした。

民泊のために「民泊事業」を推進するのではなく、すべては将来を担う日本の子どもたちのため、そして当町にあっては個人、地域、そして町の活性化にあることを繰り返し訴えてきましたが、本当に当方の想いに賛同して来てくださっているのだと、熱い会議の様子を拝見し改めて思いました。

●町内神楽競演大会史上初のアメリカ人ツアー客誘致に成功しました!

当協会1年越しの働きかけが実り、今回初めてアメリカ人18名を招く神楽ツアーが成功しました。

これは、神楽に詳しい英語が堪能な町住民の全面協力により実現することができました。ユーモアを交えた実況説明はなかなか好評でした。

見学後は町内神楽団の協力による、神楽衣装試着や撮影会が開催され、町内神楽団の厚志でプレゼントを全員に渡しました。



また、今回は子供神楽絵コンテストや、神楽面絵付け体験会などを開催しました。

一昨年、危機的財政状況を迎えた神楽競演大会でしたが、何とか継続への光明が見えてきました。

広島県最古の神楽競演大会。伝統やしきたりを変えることなく、新たな仕掛けと仕組みを構築することでさらにさまざまな方に愛されるよう工夫していこうと改めて感じました。

●安芸太田町田舎民泊事業がスタートしてから7か月で民泊型修学旅行3校目が決定しました!!

来町予定の学校は、平成25年11月に関東の高校1校、平成26年春に関西の中学校2校です。今年2月から、わずか7か月で3校目が決定することは、本当にめずらしいことです。

決め手となったキーワードは、全て「人情交流」と「田舎民泊体験」そして「ラフティング」です。

安芸太田町は、東北人の私が驚く程の「人情」と「地域の絆が深い」町です。児童生徒の自殺や、親からの虐待が過去最高となるなか、安芸太田町民が、都市の児童生徒に普段の田舎暮らしを通じ、「人と人とが折り合いをつけて協力することの大切さ」を教えられることが多くあります。そして、民泊担い手である、まちの高齢者にとって都会の子どもたちと交流し、戦後の激動期を生き抜いてこられたことで得た「人としての正しい生き方」を教えるという、大変大きな「役割」ができたことで、「心の高齢化」を防ぐことが出来ると確信します。

なお、民泊登録は事業開始からわずか8か月弱で75軒まで増えました。これも大変早いペースです。誰でも参加でき、未来を担う児童生徒に大きな教育的影響を与えられる民泊事業こそ、安芸太田町を変える大きな「仕組み」になると信じて今後も活動していきます。